

総合生殖医療センター初診受診予定の患者さんへ

総合生殖医療センター
センター長 安藤 寿夫

このたびは、初回診察までに予約待ち期間が生じ、誠に申し訳ありません。2006年に当院に着任して以来、患者数は年々増加しており、種々の工夫を重ねて対応能力をアップさせてまいりました。しかし、当センターで行っている腹腔鏡下手術などの生殖手術や、不妊症治療のピラミッドの頂点ともいえる体外受精をはじめとした生殖補助医療の当院のハード面・ソフト面での規模を考えると、対応能力はすでに限界値に達しており、熟慮の結果、初診予約待ちをお願いするかたちとなりました。また、**東三河在住のご夫婦(カップル)で当院にて出産可能な患者さんに限定**して治療をお受けすることと致しました。

さて、初診までの数ヶ月間(最長の場合)にやっておくと良いことをお伝えしたいと思います。まず第1に性交渉(夫婦生活)の機会を増やしてください。世界の平均は週2~3回です。不妊症は子を望みながら性交渉を十分行っても子どもができない病気なのですが、日本では、回数が足りない患者さんが実に多いことがわかっています。本当の不妊症なのか単なるセックスレスなのか、明らかにしてから検査・治療に臨んだ方が効率的です。

次に、女性も男性も肥満の解消に心がけてください。女性の肥満は、妊娠率を低下させるばかりでなく、高度な不妊治療により妊娠したとしても母児双方が生命の危険にさらされるほどの悪影響を及ぼすこともわかっています。また、男性の肥満も妊娠率を低下させることが明らかになってきました。さあ、あなたの理想体重をめざして今日から食事内容を改善し定期的な運動を始めてください。当院では、いかなる場合でも BMI(体重 kg/身長 m の2乗)30.0以上の超肥満女性の不妊治療は、健康第1と考えすぐに行うことができません。この場合、減量指導から始めさせていただくことになります。

最後に、子どもを望むご夫婦にタバコは厳禁です。生まれてくる子どもを守る立場からも、タバコをやめることのできないご夫婦の不妊治療には、当院では応じることができません。精子や卵子は、いずれも受精可能になるまで体内で約90日間を要します。今日から禁煙と受動喫煙防止(他者のタバコの煙を吸い込まない)を始めましょう。

このように、当センターは、心から拳児を望んでおり、妊娠・分娩の負荷に耐え得る心身ともに健康かそれに限りなく近い女性とその理解あるパートナー(夫)のみを不妊治療の対象にしています。そして、常に生まれてくる子どもの立場で治療の是非を考えています。また、生殖手術や生殖補助医療を経て妊娠成立した場合には、引き続きハイリスク妊娠として当院産科を受診していただき、文字通り総合的に健全な育児の開始までを当院で責任をもって管理いたします。皆さんには、なるべく30歳までに最初のお子さんを出産し、35歳までに最後のお子さんを出産し終えるのが、医学的な理想であることを理解のうえ、受診していただきたいと考えています。

(記載日 2013年3月1日)